60年国勢調査

# 高齢化・核家族化が進む

▶65歳以上は8664人

60年10月1日

**人口 71,794人**

**世帯数 21,335世帯**

六十年十月一日現在で実施された「国勢調査」の人口、年齢の確定結果が、総理府統計局から発表されました。それによると大館市の人口は七万一千七百九十四人で五十五年に比べて〇・九%減り、世帯数は二万一千三百三十五世帯で二・二%増、また六十五歳以上の人口も二一・五%増となっており、核家族化、高齢化が一層進んでいます。

## 36歳の女性人口が699人でトップ

昨年十月一日現在で実施された国勢調査のうち、数値が確定して発表されたのは人口、年齢、世帯についてで、当市の人口は、男三万三千八百五十九人、女三万七千九百三十五人、合わせて七万一千七百九十四人でした。これは前回の五十五年の調査時と比較すると六百八十四人（〇・九%）減っています。

年齢別でみると、当市では三十六歳の女性が六百九十九人と最も多く、次いで四十九歳の女性で六百七十四人、以下四十八歳の女性、三十六歳の男性、三十五歳の女性の順となっています。

## 65歳以上は21.5%増える

年齢三区分（別表②）の構成割合は、十五歳未満の年少人口が二〇・一%を占めており、十五歳から六十四歳までの生産年齢人口が六七・八%、六十五歳以上が一二・一%となっています。このうち老年人口は、五十五年に比べて千五百三十六人も増えている反面、年少人口は千百十九人も減っており、

年齢3区分別人口②

（ ）内は構成比

| | 55年 | 60年 |
|---|---|---|
| 0歳～14歳（年少人口） | 15,535人（21.4%） | 14,416人（20.1%） |
| 15歳～64歳（生産年齢人口） | 49,807人（68,7%） | 48,711人（67.8%） |
| 65歳以上　（老年人口） | 7,128人　（9.9%） | 8,664人（12.1%） |
| 総　人　口 | 72,478人 | 71,794人 |

※ 総人口には年齢不詳を含む

世帯人員別一般世帯数①

| | | 55年 | 60年 |
|---|---|---|---|
| 総世帯数 | | 20,858 | 21,335 |
| 一般世帯数 | 世帯人員1人 | 2,178 | 3,146 |
| | 2人 | 3,860 | 4,629 |
| | 3人 | 4,132 | 4,258 |
| | 4人 | 4,993 | 4,482 |
| | 5人 | 2,388 | 2,353 |
| | 6人 | 1,718 | 1,594 |
| | 7人以上 | 836 | 840 |
| 核家族世帯数 | 総　数 | 11,689 | 11,911 |
| | 夫婦のみの世帯 | 2,877 | 3,456 |
| | 夫婦と子供の世帯 | 7,458 | 6,882 |

## 市長の対話ノート No.144

### 一日税務署長

「税を知る週間」にちなんで、一日税務署長の光栄に浴くし、大館税務署管内の国税行政の一端を勉強させていただきました。

行政需要がますます高まる中で、それを賄う財源確保という重要で困難な仕事に深く敬意と感謝を申し上げるばかりでした。特に素材型産業の景気低迷が税収の落ち込みとなって表れていることに直接ふれる機会でありました。

納税思想を高め、申告納税意識を深めることは、税務行政の効率上、避けて通ることの出来ない道です。そのためには税金の使われている実態を正しく知っていただき、その仕組みと不公平感をなくしていかなければなりません。

しかし広範な税制をすみずみまで知っていただくことも事実上不可能に近いことですから、市民の立場から税に近づいて行くようにすることこそ大切なことではないかと思い、最も近づきやすい地方税という立場で、来年からの「税を知る週間」に県税、市税からの参加も極めて大切であろうと痛感しました。

納税は国民の義務です。施策を求める権利だけを主張しても、義務を果してもらわなければ、施策を保証する財源がないのです。そのことは知り過ぎるほど知っていますが、いざ納税となりますと頭が重くなるのでは社会は成り立ちません。

畠山健治郎

◆スポーツ・文化情報は〝ふれあい〟テレホンで☎43～2211

◆婦人会館・保健センターなどの情報は〝さわやか〟テレホンで☎43～3300